



写真は災害ボランティア活動の様子

高梁市災害ボランティアセンター活動報告…2～4頁

赤い羽根共同募金…5頁

お知らせ…6頁

寄附者一覧…7～8頁



高梁市

災害ボランティアセンター活動報告

いじめごめん

このたびの「平成30年7月豪雨」により被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。

高梁市社会福祉協議会では、市からの要請を受け、被災者の支援を行うため、7月9日に「高梁市災害ボランティアセンター」を開設しました。

開設以降、高梁市の復旧のために市民をはじめ、全国各地から数多くのボランティアの方に駆けつけていただき、酷暑の中、復旧活動に携わっていただきました。

現在、災害ボランティアセンターとしての活動は終了し、災害支援センターへ移行しておりますが、今後も被災された方へ支援ができるように全力で取り組んでまいります。

また、岡山県社会福祉協議会や他市町村社会福祉協議会、NPOなど各種団体の皆さまには、災害直後から迅速なご協力・ご支援を賜りましたことに心から感謝申し上げます。

引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願いたします。

社会福祉法人

高梁市社会福祉協議会

会長 内田 親秀



活動報告 災害ボランティアセンター実績

【開設期間】平成30年7月9日～7月29日
延べ20日間※7月29日は雨天のため中止

【開設場所】高梁総合福祉センター内

【依頼件数】172件

【ボランティア数】延人数3,134名



ボランティア活動記録

今回の災害では、高梁川の水位が上昇したことにより、床上浸水した地域が数多くありました。なかでも、玉川町玉地区と備中広瀬駅周辺（高梁市松山）の被害が大きいことから、2ヶ所にサテライトを設置し、復旧活動を実施しました。



全国のボランティアの皆さんご協力ありがとうございました



ボランティア参加者の声

地元の高梁が大きな災害に見舞われたのでボランティアセンターの話を聞いて活動をしました。自分の目で被災した場所を見て衝撃を受けましたが、県内外の人達が多くボランティアに来てくれていて、みんなで頑張ろうと思いました。少しですが復興に向けて力になれた事が僕の喜びです。



米山 弘一 さん
(南町)

依頼者の声

この度の災害で、家の中と外が土砂まみれになりました。早く片付けて元の生活に戻りたいけど、暑さで思うように作業もできず、どうにもできない状況に呆然としていました。

そんな時に災害ボランティアセンターを知り依頼をしました。数日後には来てくださり、家具の運搬や泥出し・掃除・土砂の運搬など暑い中、汗だくになりながら一生懸命に作業をして下さいました。

家が片付いたこともありがたいですが、優しい声かけや笑顔に元気をもらいました。本当にありがとうございました。



災害ボランティアセンターへのご寄附ありがとうございました

平成 30 年 7 月～ 8 月までに高梁市社会福祉協議会内に設置した災害ボランティアセンターに、多くの団体・個人の皆さまにご寄附をいただきました。センターの運営等に有効に活用させていただきます。

なお、金額等については寄附者のご意向にそって掲載しています。

国際ソロプチミストアメリカ日本西リジョンガバー小林 孝様	【500,000円】
国際ソロプチミスト高梁 様	【300,000円】
高梁長寿会 様	【300,000円】
平川地区コミュニティ協議会 様	【金一封】
有漢地域老人クラブ 様	【金一封】
龍徳院護持会臥牛天神社奉賛会 様	【金一封】
麻綴町内会 様	【金一封】
荒神町内会 様	【金一封】



中島 求 様 (落合町)	【金一封】
川崎 忍 様 (宇治町)	【金一封】
西 諒馬 様 (中井町)	【金一封】
谷口 豪 様 (川面町)	【金一封】
富士田 肇 様 (有漢町)	【金一封】

この他にも多くの方に物資・物品をご提供いただきました。



赤い羽根共同募金運動が10月から 始まります

運動期間：10月1日～12月31日

高梁市共同募金委員会では、戸別募金、法人募金をはじめ、市内のイベント等で募金運動を行います。あなたのやさしさが、あなたの声かけが、あなたの行動が、地域を変えていくはじめての一步となりますので、本年度も皆さまからのあたたかいご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

街頭募金・イベント会場での募金運動のようす



歳末たすけあい運動

11月1日～12月31日まで

「歳末たすけあい運動」は共同募金運動の一環として、新たな年を迎える時期に、支援を必要とする人たちが、地域で安心して暮らすことができるよう支援するものです。歳末たすけあい運動へのご協力をお願いします。

歳末たすけあい支援事業

高梁市社会福祉協議会では、高梁市共同募金委員会から配分を受け、歳末たすけあい支援事業として、次に該当する方々に慰問金の贈呈を行っています。

☆対象者

- 指定難病(331疾病)の対象の方
- 特定疾患治療研究事業(4疾病)の対象の方
- 人工透析を受けられている方

☆受付期間

平成30年10月15日(月)～11月20日(火)

☆申請方法

ご希望の方は、申請書の提出が必要です。申請書は、地域福祉課および各支所、各地域市民センターに備えています。申請時には、特定医療費受給者証、特定疾患医療受給者証をご持参下さい。

▽お問い合わせ先

有漢支所 ☎57-3218
川上支所 ☎48-9770

地域福祉課 ☎22-7243
成羽支所 ☎42-2005
備中支所 ☎45-3131

平成30年7月豪雨岡山県災害義援金の受付について

平成30年7月6日から8日にかけての大雨に伴う浸水等により被害を受けた被災者への援護の一助として義援金の受付をしております。

▼義援金の名称 「平成30年7月豪雨岡山県災害義援金」

▼受付期間 平成30年12月28日(金)まで

▼受付場所 高梁市社会福祉協議会本所および各支所



敬老事業の助成金交付申請を受付しています

長年にわたり地域の発展に尽力された高齢者を敬愛し長寿を祝う敬老事業（敬老会）に対し、助成を行います。助成金の交付を希望される団体等は、申請手続きをお願いします。

▼対象事業

本年9月から11月末日までの期間内に実施する敬老会。ただし、現金や記念品等の贈呈のみの事業は除く

▼対象者

平成30年8月1日現在で市内に住所を有し、平成31年3月31日までに満75歳以上になる方

▼助成金の交付額

対象者のうち、敬老会に参加された方1人当たり1,500円を助成

※この他に、敬老会実施地域内の在宅の方で満88歳（昭和5年4月1日～昭和6年3月31日の間にお生まれの方）を迎えられる方1人当たり1,500円を助成

▼支給要件

- ①複数の敬老事業で対象者が重複した場合は、1回のみ支給対象
- ②実施区域は、町内会単位以上の規模での実施
- ③実施主体は、地域住民の創意工夫により、さまざまな地域内の団体・グループ等を対象

▼申請場所

地域福祉課および各支所・各地域市民センター

※必ず開催前に申請をしてください。



寝具洗濯乾燥消毒事業の利用について

寝具洗濯乾燥消毒事業の第2回目を平成30年11月に実施します。なお、申込締切は**10月12日（金）**までとなっております。

▼対象者 寝具類の衛生管理が困難で、次のいずれかの条件を満たす方

- ①一人暮らしの高齢者・障害者
- ②高齢者・障害者のみの世帯又はこれに準ずる世帯の高齢者・障害者

※高齢者とは概ね65歳以上の方、障害者とは身体障害者、知的障害者、精神障害者および難病患者の方です。

▼対象品目 掛布団、敷布団、肌布団、毛布（シングル）の1セット（単品でも可）

※第1回目に第2回目の申請をされた方は、申請は不要です。



お知らせについての問い合わせ先

地域福祉課
 ☎22-7243
 有漢支所
 ☎57-3218
 成羽支所
 ☎42-2005
 川上支所
 ☎48-9770
 備中支所
 ☎45-3131

第2回たかはし高齢者・障がい者なんでも相談会

毎日の生活の中で、法律や福祉について困っていること、悩んでいることはありませんか。

この相談会では、高齢の方や障がいのある方だけでなくどなたでも、安心して地域で生活できるように、法律や福祉などについてのご質問・ご相談などをお受けします。

★日時 平成30年11月17日（土）午後1時～午後4時

★場所 高梁総合福祉センター（高梁市向町21-3）

（駐車場には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。備中高梁駅より徒歩10分）

★相談対応者

弁護士、司法書士、社会福祉士、精神保健福祉士、税理士、社会保険労務士、行政書士、土地家屋調査士、介護支援専門員、相談支援専門員、保健師 等々

また、同日開催で権利擁護（基礎）講座を開催します。

◆内容 「これで安心！！成年後見制度のイロハ」

◆講師 かとう社会福祉士事務所 社会福祉士 加藤 貴之 氏

◆時間 午後2時～午後3時

◆会場 2階会議室

※相談は無料。事前の予約は必要ありませんので、お気軽にお越しください。



社会福祉協議会へのご寄附

ありがとうございました。

平成 30 年
7月～8月

社会福祉法人高梁市社会福祉協議会へ平成 30 年 7 月と 8 月にいただいたご寄附についてお知らせします。
心から感謝申し上げ社会福祉事業に活用させていただきます。
なお、金額等については寄附者の意向によって掲載しています。
(敬称は略させていただきます。)



【香典・玉串料・御花料返し】

《高梁支会》

《高梁地区》

金一封 中井町 武田 元起

(故・喜一様)

金一封 中井町 清水 康汎

(故・春子様)

金一封 南町 宮本 智裕

(故・侑子様)

金一封 巨瀬町 藤森 修市

(故・智恵子様)

金一封 落合町 亀山 一三

(故・照代様)

金一封 落合町 逸見 定光

(故・昌作様)

金一封 中井町 西村 毅

(故・みち江様)

金一封 笠岡市 吉藤 正明

(故・麻代様)

金一封 正宗町 東 喜代子

(故・隆弘様)

金一封 中井町 渡辺 明

(故・信子様)

金一封 落合町 藤原 巧

(故・文雄様)

金一封 上谷町 井上智恵子

(故・義昭様)

金一封 下町 平松まり子

(故・民三郎様)

金一封 高倉町 安部 英子

(故・亨次様)

金一封 中井町 宮田 俊一

(故・壽子様)

《川面地区》

金一封 川面町 小川 幸也

(故・道子様)

金一封 川面町 森脇 恭子

(故・時夫様)

金一封 川面町 平山 真吾

(故・俊一様)

《巨瀬地区》

金一封 巨瀬町 藤森 修市

(故・智恵子様)

金一封 巨瀬町 大江 国彦

(故・政史様)

《中井地区》

金一封 中井町 武田 元起

(故・喜一様)

金一封 中井町 清水 康汎

(故・春子様)

金一封 中井町 松田 健一

(故・八千代様)

金一封 中井町 西村 毅

(故・みち江様)

金一封 中井町 西 康男

(故・二郎様)

金一封 中井町 石川 行博

(故・昭子様)

《玉川地区》

金一封 玉川町 石田 泰宏

(故・鷹子様)

《松原地区》

金一封 松原町 兼岡登美恵

(故・惠様)

金一封 松原町 川西 秀輝

(故・博様)

《高倉地区》

金一封 高倉町 安部 英子

(故・亨次様)

《落合地区》

金一封 落合町 市後 睦夫

(故・照子様)

金一封 落合町 亀山 一三

(故・照代様)

金一封 落合町 逸見 定光

(故・昌作様)

金一封 落合町 藤原 巧

(故・文雄様)

金一封 落合町 西 健

(故・美乃様)

《有漢支会》

金一封 上有漢 近藤 彰

(故・正之様)

金一封 有漢 大月 彰

(故・正夫様)

金一封 倉敷市 信木 修

(故・小原壮之様)

金一封 有漢 西 一男

(故・晃様)

《成羽支会》

金一封 倉敷市 麻田 芳敬

(故・昌孝様)

金一封 下原 渡邊 醇造

(故・良子様)

金一封 布寄 佐小 清未

(故・平松刃一様)

金一封 羽山 流田 末美

(故・好明様)

金一封 成羽 樋口 好子

(故・清一様)

金一封 下原 藤井 春二
(故・鶴子様)

金一封 成羽 山上 巖
(故・進一様)

金一封 上日名 家森 章
(故・公子様)

《川上支会》

金一封 七地 田中 茂
(故・博様)

金一封 倉敷市 吉村 直佳
(故・一女様)

金一封 仁賀 中西 常男
(故・孝江様)

《備中支会》

金一封 布瀬 高見 安子
(故・幸男様)

金一封 布瀬 金藤 清雄
(故・西林采女様)

金一封 布賀 三原 誠
(故・昭治様)

金一封 平川 上本 花代
(故・信夫様)

金一封 長屋 須戸 嘉雄
(故・はる子様)

金一封 西油野 川上 秀夫
(故・余品様)

金一封 長屋 前原 英之
(故・俊子様)

【一般寄附】

《高梁支会》

《高梁地区》

金一封 匿名
(社会奉仕として)

金一封 宇治町 杉田 善一
(お礼として)

《宇治地区》

金一封 宇治町 杉田 善一
(お礼として)

《有漢支会》

金一封 有漢 蓮井 清孝
(退院内祝いとして)

金一封 有漢 建部 延子
(謝礼として)

金一封 有漢 田中 都子
(退院内祝いとして)

金一封 上有漢 山根 隆
(退院内祝いとして)

《川上支会》

金一封 七地 大塚 潔美
(退院内祝いとして)

金一封 地頭 日谷 一夫
(退院内祝いとして)

金一封 仁賀 萩原 秀一
(白寿内祝いとして)

《備中支会》

金一封 長屋 森繁俊太郎
(退院内祝いとして)

金一封 平川 川谷富美恵
(退院内祝いとして)

金一封 布賀 前原 禎江
(退院内祝いとして)

金一封 平川 前原 訓朗
(退院内祝いとして)



編集後記

9月に入り市内各所で稲の刈り取りが進み、空も高く、すっかり秋らしくなってきました。季節の移ろいを肌で感じられる気持ちの良い季節になりました。

この度の豪雨災害で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。今号では災害ボランティアセンターの活動について掲載しております。私も実際に被災された方のお宅へ伺う機会がありました。被害の大きさに言葉を失いました。そのような中、ボランティアの方が炎天下にもかかわらず必死で活動されていました。その一途な姿勢には頭が下がる思いでした。

この災害で家族・友人・職場の皆にいつも笑顔で会えることが当たり前ではないことに気がきました。ささやかでも何気ない、穏やかな日常が何よりの幸せであることに感謝して日々を過ごそうと思います。

これまでの疲れが出やすい時期です。どうかご自愛なさってお過ごしください。(K)



この広報紙は、寄附金の一部を活用して発行しています